

春
夏
秋
冬

6

四季のコンサート だより

1990年9月1日発行
浜松音楽友の会
事務局 浜松高東伊場1-10-507
電話連絡 54-1746(高田)

“室内楽はありますか”

浜響音楽監督 白柳昇二

音楽都市宣言とかを声高にうたう町もあるが、そういう町には音楽がない。
浜松国際ピアノコンクールの審査員を頼むため、丁度桐朋学園でレッスンして居られたインディアナ大学のシェホック教授を訪ねた。

“コンクールと音楽文化とは直接関係がない、浜松では室内楽のコンサートはありますか”と聞かれた。
室内楽のコンサート、それにはその町に住んでいる音楽家による、という意味がある。
立派なコンサートホールを建てることも素晴らしいが、地元ソフトがある、つまり音楽家がたくさん住んでいることが本当の音楽都市だと思う。

数年前エジプトのカイロに滞在したことがある。なんとカイロ在住の日本人の奥さんたち10人ほど、大使館員夫人や商社マン夫人だけで立派なコンサートが開かれているのである。

聞けば夫人達の多くは日本の有名音楽大学を出ているとのことだった。
音大を出る人は大勢いるが、惜しむらくは女性の大半が家庭に入ってしまう、折角の技能を演奏に生かすことが少ない。
また多くの人が演奏をしないで生徒さんを教えるだけというもったいない生活をしているうちに、本当に弾けなくなった声が出なくなってしまうのである。

静岡県にも実力ある演奏家が大勢かくれているに違いない。
ひとに聴いてもらうことで音楽家は成長する。
一年一度でも、聴き手は少なくとも、演奏をするように心掛けてほしいものだ。
それが“室内楽はありますか”の音楽の町へつながるのだと思う。



90年春
弦楽アンサンブル「ナーダ」と
野島 稔(ピアノ)さんと

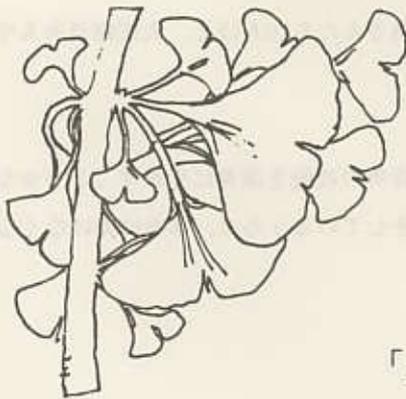
私にとってのふれあい音楽会

小学校六年 奥村友美

私が音楽会を聴き始めたのは、小学校一年生ぐらいの時でした。その当時、初めのうちは、目をかがやかせて聴いていましたがだんだんねむくなり、ねてしまうことが多くありました。しかし、今は、最初から最後の拍手、アンコールまでしっかり聴けるようになりました。これも、ふれあい音楽会の素晴らしい演奏と楽しいインタビューのおかげだと思います。インタビューの時は、いろいろなお話や説明などをくわしく、分かりやすく、おもしろく話してくれるので楽しみの一つです。

特に思い出すのは、佐藤しのぶさんの声楽リサイタルの時、演奏会前は、特に体調をくずさないよう気を付けるというお話です。例をあげると、寒い所に行かないということや生物を食べないということでした。そこで、声楽の人は、人一倍体調を気にしていることが分かりました。私はピアノを習っていますが、ピアノのコンサートの他に、ヴァイオリン、歌、オーケストラ、アンサンブルなども楽しめてこの会に入って良かったなあと思います。冬のコンサートが終わると次の年のコンサートは、どういのがそろっているかはやく見たくてたまりませんでした。そしてその中に私の好きな楽器や曲などが入っていると今まで以上に楽しめるということでした。

私としては、ピアノコンチェルトなども入れてほしいと思います。ふれあい音楽会は、一年に4回しかありませんが、その間に次回の曲目などを調べたり、レコードを聴いたりすると、もっと内容が分かるようになると思います。こうして音楽とふれあうことは、大切だと感じました。



「大きくなったら何になるの？」

大学生 加藤ちぐさ

幼い頃の私は、こう問われるとすかさず、「ピアニスト」と答えていたものでした。本当にピアノを弾くのが大好きでした。6歳の春、はしかにかかってしまい外で遊べなかったときも、一日中モーツァルトのトルコ行進曲等の入ったレコードを聴きつつ、小学校の入学式の日を指折り数えて待ちわびていたことなどを思い出します。しかし、幼な子の夢はやはり夢でしかなく、今私は、医師となるために勉強中の学生です。勿論今だって音楽もピアノも大好きですけれど。

普通のコンサートってどうしてあんなに高いんでしょう。貧乏学生にはちょっと辛い金額です。それでも頑張って時々はおしゃれをしてホールに足を運んでいます。でもこの頃、プレイガイドで座席表とお財布の中味を見比べることが少し少なくなったのは、「ふれあい音楽会」のせいかもしれません。だって、あれこれ悩む必要もなく安い値段で素晴らしいコンサートに季節毎に通えるんですもの。もう2年前になりますが、イギリスに旅したとき、ロンドンで、アシュケナージ指揮、ロイヤル・フィルのチャイコフスキー「マンフレッド」等を、ロイヤル・アルバートホールのボックス席で聴く機会がありました。信じられないくらいの金額の安さと、思い思いの服装や姿勢で音楽を楽しんでいる聴衆を見て、音楽は楽しむものだという点では日本はちょっと遅れてるのかしらと思ってしまいました。でも！「ふれあいコンサート」は音楽の原点がちゃんと実現されていると感じています。

プロのピアニストにはなれなかった私ですが、今は趣味のピアニストとして、友人たちとやっているスウィング・ジャズ・バンドのピアノパートを担当したり、友人のヴァイオリンの伴奏をしたり、音楽を楽しむ生活を送っています。

音楽と私

スタッフ 高田 昭子

猛暑の続く夏のある日、つけ放しのF.M放送のラジオから、マリア・カラスの美しい歌声が響いてきました。しばらく家事の手を休め、ボリュームを一ぱいにしてアリアに耳を傾けました。聞き終わって、「フー」と感嘆のため息をついてしまいました。ほんとうにすばらしく完璧なテクニックで歌い、ドラマの中にぐっと引き込まれ、魔法にとりつかれたような気持ちになってしまいました。曲名はオペラ「ノルマ」のアリアで主役のノルマが歌う「清らかな女神」でした。このように私はラジオとかレコードで世界のすばらしい演奏家と毎日、お目にいやお耳にかかかって楽しんでいます。

私はピアノや、バイオリンの演奏も好きですが、特に声楽を楽しむようになったきっかけは、かつて高校生だった長女が声楽の勉強をしていた時、初めての発表会でブッチーニのオペラから「私のお父さん」を歌った時からです。こんな素敵な曲があったのかと思ひ、声楽について少しずつ理解を深めていき、今ではオペラが大好きになりました。長女のレッスンの歌声に囲まれ、親子でオペラのビデオやL.Dを見ながらオペラ談議をするのが楽しい毎日です。

ふれあい音楽会で東敦子さん、木村俊光さん、佐藤しのぶさんたちのすばらしい生の歌声に接し、たいへん感激いたしました。特に東敦子さんの演奏会は心の込もったとても温かい雰囲気でおこなわれ誠実なお人柄も感じられました。美しい声とともに一生忘れられない思ひです。このように私にとってふれあい音楽会はすばらしい生演奏を聞くことのできるよい機会になっていて楽しみのひとつです。

ふれあい音楽会についての「お問い合わせ」のお仕事をお引き受けして二年になります。この素敵な音楽会のために、少しでもお役に立つことができればと思ったからです。入会希望についてのこと、チケットを紛失してしまったこと、会費の振込みが遅れてしまったこと等々いろいろな問い合わせがあります。時には入会してほんとうによかったとか、これからもずっと続けてほしいとか、会へのお励ましの言葉をいただくことがあります。そのような時は係をお引き受けしてよかったと思うことがあります。お問い合わせに対して私もできるだけ心を込めて応じたいと思っています。微力ですがこれからも一生懸命やっていきたいと思っています。

会員の皆様へお願い

会員だより 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚内をお願いいたします。

会員登録 は年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は住所 氏名 電話 会員番号を御記入の上前年度の10月末日迄に事務局宛退会の旨御連絡下さい。

名義変更の方も葉書に旧会員と新会員の住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。

尚、来年度より会員登録番号が新しくなりますので、御承知おきください。



しんまいスタッフの記

スタッフ 近藤 敦子

会員の皆様、お元気ですか。私は第1回からの会員ですが、去年からスタッフとして、お手伝いをさせていただいております。スタッフの声がかかった時の私の一番の期待は、「楽屋裏から演奏者の素顔が見られる」でした。……が…

去年の冬のコンサート（仲道郁代さん）の様子を追ってみます。

4時30分、楽屋にスタッフ全員集合。ステージからリハーサルの最中らしいピアノの音が聞こえる。会長から今日の手配や注意、連絡などを受ける。私の係は受付と会場係。6時に開場とし、入場者のチェックが主な仕事。ホール入口の錠の保管は私の責任。6時までにはまだ少し間がある。

5時、外部から電話、「券を紛失してしまった。」「当日券はあるか」「開演は何時」「曲目は」「東京の事務所ですが…」etc. 飛び廻っているうちに

6時、開場。「お待ちどうさま」冷たい風の中、長い列ができています。開演ぎりぎりになっても続々と入場者がある。今日は地元出身の仲道さんだから特にお客様が多い。30代中半と見られる小太りの男性が突然寄ってきて、「仲道さんは前の三列は聴衆を座らせないことにしているはずだ。昨日の静岡公演もそうだった。マネージャーに聞いてほしい」という。連絡をとって、「そういうことはありません。どうぞどこでもお座り下さい」と返事をする。彼は何か不満そう。何かブツブツ言いながらロビーを行ったり来たり…。

6時30分開演時刻。入場者の切れ間がないため5分遅らせて、いよいよ開演のベル、静寂、拍手、モーツァルトがロビーに流れる。前半は残念ながら聴けない。アルバイトの学生に受付を頼んで、後半の演奏は聴かせてもらう。

濃いブルーのドレスがちょっとメランコリックな音楽にびったり。とび廻っていた疲れから、音楽と眠りの緩やかな流れにすうっと吸い込まれそうに……。

大きな感動のうちに終演。ロビーでのサイン会も黒山の人。…あ。先程の彼が人ごみの中に！何やら変な予感、自分の年令ときゃしゃな身体も顧ず、気がつくと、咄嗟の時は仲道さんをガードするつもりで身構えていた。

9時20分、会館の中は掃除の人の姿だけになり、今日のコンサートは終了。ゆっくり音楽は楽しめなかったが、無事に終わった満足感と疲労感が気持ちよく残る。私もおろおろせずに先輩スタッフのようにゆとりをもって勤められるように早くになりたい。

演奏家の素顔？ 残念ですがまだそこまではとてもとても…。(年頃の娘を持つ者としてどうしても男性には敏感になってしまって、当の男性の方、ごめんなさいね)



1991年 コンサート予定

春 「日本音楽の夕べ」 横山勝也(尺八)他 4月16日(火) 市民会館ホール

夏 「清水和音 ピアノ・リサイタル」 6月17日(月) 市民会館ホール

秋 「松本美和子 ソプラノ・リサイタル」 9月26日(木)

冬 「アンサンブルの夕べ」 吉野直子(ハープ) 長谷川陽子(チェロ)

前橋江子(リサイタル) 11月29日(金)